

小学校の地域学習における社会的事象の特色や相互の関連について考える力を高める指導の工夫

—— 広い視野から考える資料集「ぐんまくん」の作成と活用を通して ——

長期研修員 養田 信行

《研究の概要》

本研究は、小学校の地域学習において、広い視野から考える資料集「ぐんまくん」の作成と活用を通して、社会的事象の特色や相互の関連について考える力を高めることを目指したものである。具体的には、地域の社会的事象を見学する活動と学習課題をつなげることで、学習のねらいを明確に持つ。次に、資料集「ぐんまくん」を活用し、自分たちが調べた社会的事象と群馬県全体の様子を比較・関連付けて考える。そして、地域の社会的事象を調べて分かったことと資料集「ぐんまくん」で広い視野から考えたことを基に意見交換する中で特色や相互の関連をまとめる。これらの活動を行うことで、社会的事象の特色や相互の関連について考える力を高められることを授業実践を通して明らかにした。

キーワード 【社会—小 地域学習 社会的事象の特色や相互の関連 資料集】

群馬県総合教育センター

分類記号：G02-02 平成27年度 255集

I 主題設定の理由

小学校学習指導要領解説社会編では、第3学年及び第4学年の能力に関する目標について、「地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする」と示されている。小学校の地域学習では、社会的事象をよく見て調べたり、具体的資料を効果的に活用したりしながら、地域の地理的環境や人々の社会生活の様子を具体的に捉え、特色や相互の関連などについて考えることが重要とされている。

「ぐんまの子どもの基礎・基本学習状況調査」や「全国学力・学習状況調査」の調査結果の課題を基に、「はばたく群馬の指導プラン」では、群馬の小学校3・4年生の子どもに伸ばしたい資質・能力の一つとして地図や写真を読み取ることができることを挙げている。また、平成25年7月発行の「第2回ぐんまの子どもの基礎・基本学習状況調査の結果分析資料」では、資料から読み取った情報を関連させて、社会的事象を説明することを小学校社会科の課題としており、指導のポイントとして児童が疑問を持てるよう、資料の選択や段階的な資料の提示を行うことを掲げている。そして、平成27年度の県の学校教育の指針では、教師が児童生徒に読み取らせる事柄や情報を明確にして、資料を提示することを社会科の指導の重点としている。これらのことから、内容を吟味した資料を提示し、資料から得られた情報を比較・関連付け・総合しながら考察する活動を通して、社会的事象の特色や相互の関連について考える力を高めていくことが大切であると考えられる。

岩手大学教育学部附属小学校(2014)の研究によると、自分自身と社会的事象の距離を縮めて考えさせるための資料を提示し、人の営みや社会との関わりについて考えることが、社会的事象を自分事として捉える力を高めることにつながったとある。自分の生活とのつながりや多面的・多角的な考え方に着目した資料を提示し、それを基に社会との関わりを見つめ直すことで、社会的な見方や考え方を広げることができたとある。この先行研究から、社会的事象の特色や相互の関連について考える力を高めるためには、資料を効果的に活用しながら考察する活動を行うことが有効であることが分かったが、小学校の地域学習において、副読本以外にどのような資料を取り入れるとよいかは、十分に明らかにされていない。

協力校の児童は地域の調べ学習に意欲的に取り組み、自分たちの住んでいる地域の社会的事象について調べたことを模造紙や新聞にまとめることができている。しかし、調べた社会的事象を整理して書くだけの学習活動に終わりがちで、社会的事象相互のつながりを考察する活動の設定ができていないことから、思考の広がりや深まりを十分に与えることができていないという課題を感じている。小学校3・4年生の地域学習は、自分たちの住んでいる地域のみ視点で学習することが多く、地域の地理的環境や人々の社会生活の様子を考える時に相互の関連を見るための資料が十分には用意できていない。結果的に社会的事象を多面的・多角的に考えさせることができていないのではないかと考えられる。

そこで、群馬県の統計や行政の取組などを知る具体的資料を作成・活用し、「群馬県全体の様子はどのようなのか」という広い視野から自分たちが調べた社会的事象と群馬県全体の様子を比較・関連付けて考える学習活動を取り入れることで、自分たちの住んでいる地域のことのみを調べる学習に終わらず、社会的事象の特色や相互の関連についてより広く考えることができるのではないかと考えた。

以上のことから、小学校の地域学習において、広い視野から考える資料集「ぐんまくん」を作成し、活用しながら自分たちの住んでいる地域の社会的事象を考えることによって、社会的事象の特色や相互の関連について考える力を高めることができると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

小学校社会科の地域学習において社会的事象の特色や相互の関連について考える力を高めるために、広い視野から考える資料集「ぐんまくん」を作成し、活用しながら自分たちの住んでいる地域の社会的事象を考えることの有効性を明らかにする。

Ⅲ 研究仮説（研究の見通し）

1 地域の社会的事象についての学習のねらいを明確に持つこと

追究する過程において、見学・質問のポイントを作成し、見学する活動と学習課題をつないで自分たちの住んでいる地域の社会的事象を見学、調査することにより、地域の社会的事象についての学習のねらいを明確に持つことができるであろう。

2 地域の社会的事象を比較・関連付けて考えること

追究する過程において、資料集「ぐんまくん」を活用し、自分たちの住んでいる地域の社会的事象と群馬県全体の様子や取組を比較・関連付けて考えることにより、地域の社会的事象を様々な側面や異なった立場から見ることができるであろう。

3 地域の社会的事象の特色を広く捉えること

考え・まとめる過程において、自分たちの住んでいる地域の社会的事象を見学、調査して分かったことと、資料集「ぐんまくん」で広い視野から考えたことを基に、地域の人々の社会生活の特徴や工夫、努力についてまとめ、意見交換することにより、地域の社会的事象の特色を広く捉えることができるであろう。

Ⅳ 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 地域学習における社会的事象の特色や相互の関連について考える力とは

小学校学習指導要領解説社会編では、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力を、「自分たちの住んでいる市と県内の他地域との比較などによって人々の生活の特色について考える力や、地域の人々の生活と自然環境、伝統や文化などとの関連、願いを実現していく地域の人々の工夫や努力、協力と生活や生活環境の維持と向上との関連、地域の人々の生活や産業と国内の他地域や外国との結び付きなどについて考える力」としている。本研究では、地域学習における社会的事象の特色や相互の関連について考える力を地域の人々の社会生活の特徴や工夫、努力について考察し、どのような特色が見られるのか見いだす力や社会的事象相互のつながりを明らかにする力と捉えた。また、その力は、地域の社会的事象について自分たちが調べたことと群馬県全体の様子を比較・関連付けて考えることで、より高められるのではないかと考えた。

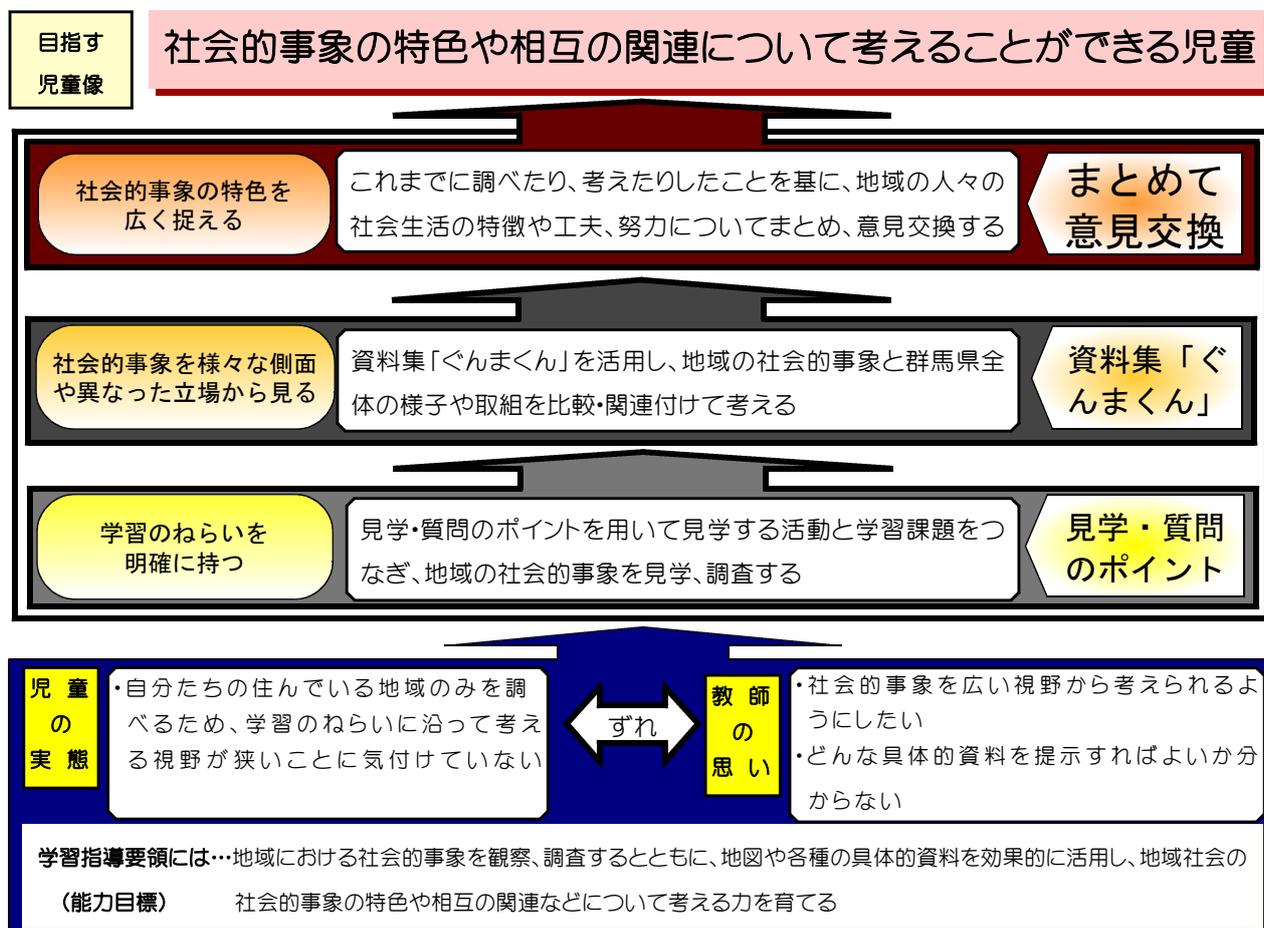
そこで、自分たちの住んでいる地域の社会的事象を見学、調査した後に、「群馬県全体の様子はどうなっているのか」という広い視野から考える学習活動を取り入れる。具体的には、群馬県の統計や行政の取組などを収集した資料集「ぐんまくん」を作成し、副読本とともに追究する過程で、空間的な視点（自分たちの住んでいる市町村と群馬県）や時間的な視点（過去と現在）から、自分たちの住んでいる地域の様子と群馬県全体の様子を比較・関連付けて考えることで、地域の特徴が明確になり、社会的事象が持つ多様な面に気付けるようにする。さらに、地域社会のために地域の人々が行う取組と自分たちができることや課題を異なった立場から考えられるようにする。これらの活動を通して、社会的事象の特色を見だし、相互の関連を明らかにすることができると思われる。

(2) 広い視野から考える資料集「ぐんまくん」とは

自分たちの住んでいる地域の社会的事象について見学、調査した後に、人々の社会生活の特徴や工夫、努力について考察する場面において、「群馬県全体の様子はどうなっているのか」という広い視野から考えてみるができるよう具体的資料を収集したものが、資料集「ぐんまくん」である。社会的事象を様々な側面から見たり、異なった立場から考えたりする活動を促すことができるようにしている。資料の構成は、「学習を理解する上で大切な言葉を説明している資料」「学習に

関連する群馬県の概要や課題、県として進めている取組の資料」「地域社会のために地域の人々が行っている取組の資料」からなる。また、この資料集には、「ワークシート」「展開例」を添付し、教師がスムーズに学習を展開できるようにする。

2 研究構想図



V 研究の計画と方法

1 授業実践の概要

(1) 第1回目授業実践

対象	研究協力校 小学校第4学年 35名
実践期間	平成27年6月2日～平成27年6月30日 13時間
単元名	住みよいくらしとごみ
単元の目標	ごみの処理や有効利用と自分たちの生活や産業との関わりや、これらに関わる対策や事業が計画的、協力的に進められ、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解し、ごみの減量やリサイクルなど自分たちに協力できることを考え、進んで取り組もうとする。 ごみの処理や有効活用の諸活動から学習問題を見だし、施設・設備を調査、見学したり資料を活用したりして調べたことをまとめるとともに、これらの対策や事業が地域の人々の健康の維持向上に役立っていることを自分たちの生活と関連付けて考え、適切に表現する。

(2) 第2回目授業実践

対象	研究協力校 小学校第4学年 35名
実施期間	平成27年10月14日～平成27年11月2日 10時間
単元名	ふるさとれきしまップ
単元の目標	地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事の様子や、それらには地域の生産活動やまちの発展、人々のまとまりなどへの願いが込められていることを理解し、地域社会に対する誇りと愛情を持つようとする。 地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事から学習問題を見だし、見学・調査したり、保存・継承に携わる人から話を聞いたりして調べたことをまとめるとともに、文化財や年中行事に込められた地域の人々の願いや保存・継承するための努力について考え、表現する。

2 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	追究する過程において、見学・質問のポイントを作成し、見学する活動と学習課題をつないで自分たちの住んでいる地域の社会的事象を見学、調査することにより、地域の社会的事象についての学習のねらいを明確に持つことができるであろう。	・ノートやワークシートの記述 ・活動状況の観察
見通し2	追究する過程において、資料集「ぐんまくん」を活用し、自分たちの住んでいる地域の社会的事象と群馬県全体の様子や取組を比較・関連付けて考えることにより、地域の社会的事象を様々な側面や異なった立場から見ることができるであろう。	
見通し3	考え・まとめる過程において、自分たちの住んでいる地域の社会的事象を観察、調査して分かったこと、資料集「ぐんまくん」で広い視野から考えたことを基に、地域の人々の社会生活の特徴や工夫、努力についてまとめ、意見交換することにより、地域の社会的事象の特色を広く捉えることができるであろう。	

3 抽出児童

A	写真や表、グラフなどの資料から必要な情報を読み取ることができる。資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉えることができる。個々に調べたことを理解し、相互のつながりに目を向けて考察するが、十分な根拠を示して記述できない。根拠を示しながら自分の考えを記述できる。グループでの意見交換では、友達への考えのよさに気づき、自分の考えを友達に詳しく伝えることができる。
B	写真や表、グラフなどの資料から必要な情報を読み取ることができるが、資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉えることは十分にできない。個々に調べたことは理解できるが、相互のつながりを考察できず、根拠を示して記述できない。グループでの意見交換では、友達への考えを取り入れて、自分の考えを友達に伝えることができる。

4 評価規準

(1) 第1回目授業実践「住みよいくらしとごみ」

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 の技能	社会的事象についての知識・理解
ごみの処理や有効利用に関わる対策や事業に関心を持ち意欲的に調べるとともに、学習したことをごみの減量やリサイクルなど、生活の中での取組に生かそうとしている。	ごみの処理や有効利用に関わる対策や事業について、学習問題や予想、学習計画を考え表現するとともに、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活の維持と向上に役立っていることを考えたり、ごみの減量や資源の有効利用のために、生活の中で自分たちにできることを判断したりして、それらを適切に表現している。	ごみの処理や有効利用に関わる施設を調査・見学したり、統計資料を活用したりして必要な情報を集め、ごみの処理や有効利用の様子やそれらが計画的、協力的に進められていくことを読み取って、白地図や作品にまとめている。	ごみの処理や有効利用は自分たちの生活や産業を支える大切な取組であり、これらの対策や事業が計画的、協力的に進められ、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。

(2) 第2回目授業実践「ふるさとれきしまップ」

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 の技能	社会的事象についての知識・理解
地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事に関心を持ち、見学や調査活動を通して意欲的に調べ、これらへの愛着を持って、その保存・継承について考えようとする。	地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事について、学習問題や予想、学習計画を考え、表現するとともに、文化財や年中行事にこめられた地域の人々の願いや保存・継承するための努力について思考・判断したことを、適切に表現している。	地域の人々の文化財や年中行事を見学・調査したり、保存・継承に携わる人から話を聞いたりして必要な情報を集めて調べたことを、白地図などの作品にまとめている。	地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事の様子や、それらには地域の生産活動やまちの発展、人々のまとまりなどへの願いが込められていることを理解している。

5 指導計画

(1) 第1回目授業実践「住みよいくらしとごみ」

<資料集「ぐんまくん」で提示する主な項目>

- 大切な言葉を説明している資料
- 群馬県のごみ問題の概要や課題、ごみ処理に対する群馬県の取組の資料
- ごみを減らすために家庭、学校、店、地域の人々がやっている取組の資料

時間	過程	資料集「ぐんまくん」で提示する主な項目	主な学習活動
第1時～第4時	つかむ		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭からどのようなごみが出されているのか思い起こす。 ・1週間で家庭からどのようなごみが出るか予想する。 ・ごみ調べをした結果を見ながら、その種類など気付いたことを発表する。 ・自宅近くの収集場所を地図に書き入れる。
		・大切な言葉の説明「ごみの分別」	<ul style="list-style-type: none"> ・実物を使って、ごみを具体的に分別する。 ・なぜ分別してごみを出すようにしているのか考える。 ・資料を参考にして藤岡市のごみの出し方を考える。
			<ul style="list-style-type: none"> ・地域の収集場所の地図を作り、効率のよい収集方法を考える。 ・なぜ集める日が違うのか、いくつに分けてごみを出すのか、集めたごみはどこに行くのかを考える。 ・ごみの収集について調べたことや考えたこと、学んで分かったことを書く。 ・学習課題を設定する。
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><学習課題>分けて集められたごみや資源は、どのようにして処理されたり、再利用されたりするのでしょうか。</p> </div>
第5～第	追究す		<ul style="list-style-type: none"> ・清掃センターの見学について話し合う。 ・清掃センターで聞きたいことを考え整理する。 ・見学したり質問したりして分かったことをメモしながら清掃センターを見学する。(2時間) ・燃やせるごみのゆくえんについて調べたことや考えたことをまとめ、この学習で学んだことを書く。

9時	る	・大切な言葉の説明「リサイクル」	・資源ごみの処理方法を調べる。 ・資源ごみのゆくえについて調べたことや考えたことをまとめ、この学習で学んだことを書く。
第10時～第13時	考え・まとめ	・群馬県の概要「群馬県のごみ処理」 ・群馬県の取組「ごみ処理の問題に対する群馬県の取組」	・商店での買い物为例にとり、昔と今の比較をする。 ・昔と今のごみ処理の違いについて考える。 ・家で聞いたことを基に絵で表す。
		・自分にできること「ごみを減らすために人々がしていること」	・資料集「ぐんまくん」を活用し、群馬県のごみやごみ処理の特色を調べる。 ・ごみ処理の問題を解決するために群馬県として進めている取組を調べる。 ・群馬県がごみ処理の問題を解決するために取組をしている理由を考える。
			・なぜごみを減らすと良いのかについて考え、発表する。 ・資料集「ぐんまくん」を活用し、ごみを減らすために家庭、学校、店、地域の人々が行っている取組の良いところや大変なところを見いだす。 ・実現するためにはどのような工夫をすればよいかグループで話し合いながら、ごみを減らすために自分にできることを考える。 ・ごみを減らすために自分でできることをグループで紹介しながら意見交換する。
		・これまでに調べたことを基に学習課題に対する答えやこの学習で学んだことを書く。 ・学習課題に対する答えやこの学習で学んだことをグループで意見交換する。	

(2) 第2回目授業実践「ふるさとれきしまップ」

<資料集「ぐんまくん」で提示する主な項目>

○ 大切な言葉を説明している資料

○ 群馬県の文化財の概要や課題、文化財保護に対する群馬県の取組の資料

○ 文化財を保護するために地域の人々が行っている取組の資料

時間	過程	資料集「ぐんまくん」で提示する主な項目	主な学習活動
第1時	つかむ		・自分たちの住んでいる地域の祭りや年中行事、古くから残る建物などの写真を見て、知っていることや疑問に思ったこと、自分たちが参加した経験を発表する。 ・地域にはどんな古い物や続いていることがあるのか話し合う。 ・地域に残る古い物や参加したことがある祭り、年中行事等を基に詳しく調べるものを決める。 ・学習課題を設定し、調べる方法を話し合う。 <学習課題> 地域に残る古い物には、どんな願いが込められ、どのように受け継がれてきたのでしょうか。
第2時～第7時	追究する	・大切な言葉の説明「文化財」	・見学で何を見たり、聞いたりすればよいかを確認しながら、見学・質問のポイントをつくる。 ・地域に古くから残る建物などの文化財を見学して調べる。 ・見学したことを歴史発見メモに記録する。 ・記録したメモをもとにして歴史発見カードにまとめる。(2時間)
		・大切な言葉の説明「祭り」「年中行事」	・昔から続く地域の年中行事をよく知る人に聞き取り調査をして調べる。 ・聞き取りしたことを歴史発見メモに記録する。 ・記録した写真や歴史発見メモをもとにして歴史発見カードにまとめる。(2時間)
		・群馬県の概要「群馬県の文化財」 ・群馬県の取組「文化財保護に対する群馬県の取組」	・歴史発見カードを基に個人で調査結果をまとめる。 ・個人でまとめたことをグループの中で紹介し合う。 ・文化財や祭り、年中行事について、込められた昔の人の思いや願いについて考える。 ・資料集「ぐんまくん」を活用し、群馬県の文化財の特色や保護に対する課題について調べる。 ・群馬県に残る文化財や年中行事を保存・継承するために群馬県として進めている取組について調べる。
第8時～第10時	考え・まとめ		・これまでに調べて分かったことや昔の人の願いを基にふるさとれきしまップにまとめる。 ・まとめたふるさとれきしまップから、これから残していきたいことやみんなに伝えたいことを話し合う。
		・自分にできること「地域に残る文化を受け継ぐために人々がしていること」	・なぜ地域に残る文化を受け継ぎ、守っていくのかについて考え、発表する。 ・資料集「ぐんまくん」を活用し、地域に残る古い物を受け継ぎ守るために人々が行っている取組の良いところや大変なところを見いだす。 ・実現するためにはどのような工夫をすればよいかグループで話し合いながら、地域に残る古い物を受け継ぐために自分でできることを考える。 ・地域に残る古い物を受け継ぐために自分でできることを紹介しながら意見交換する。
			・これまでに調べたことを基に学習課題に対する答えやこの学習で学んだことを書く。 ・学習課題に対する答えやこの学習で学んだことをグループで意見交換する。

VI 研究の結果と考察

1 第1回目授業実践の結果と考察

(1) 追究する過程において、地域の社会的事象についての学習のねらいを明確に持つことができたか

学習課題「分けて集められたごみや資源は、どのように処理・再利用されるのか」を設定し、追究する過程では、自分たちの住んでいる地域にある清掃センターへ見学に行き、ごみがどのように処理されるのかを清掃センターで働く人に質問した。学習課題を解決するために「焼却炉では何時間燃やすのか?」「アルミ缶はどこへ持っていくのか?」などの質問ができた。しかし、見学後の感想では、「バスに乗って見学に行ったので、楽しかった」で終わったり、気づきや発見を記述できなかつたり、見学する目的が何であったかを理解できていなかったのではないかとと思われる姿が

見られた。

このように、学習課題と関係なく十分な発見を引き出せない感想になってしまうのは、見学と学習課題を児童の意識の中に十分つなげさせることができなかつたためと考える。そこで、見学ではどんなことを見たり、聞いたりしたらよいかをまとめた見学・質問のポイントを作成して常に学習課題を意識し、見学する活動と学習課題をつなぎ合わせて学習のねらいを明確にする必要があると考えた。第2回目の授業実践では、見学・質問のポイントを作成・活用し、なぜこの活動をするのかという意識を児童自らが持ちながら見学、調査できるようにする。

(2) 追究する過程において、地域の社会的事象を比較・関連付けて考えることができたか

追究する過程において、資料集「ぐんまくん」を活用して、自分たちの住んでいる地域のごみの量やごみ処理の費用と群馬県全体の様子を比較して考える活動を取り入れた。ごみ処理の問題を解決するために群馬県が行う取組を調べたり、ごみを減らすために家庭や学校、地域の人々が行っている取組の良いところや大変なところを考えたりした。自分たちの地域のごみ処理について調べたことと群馬県全体の様子を比較することで、なぜ一人当たりのごみの量が多く、ごみ処理に掛かる費用が高くなっているのかと考え、問題点をワークシートに記述した。また、ごみ処理の問題を解決するために県や市が様々な取組を行う理由を考えた。ごみの分別は、ごみの再資源化をすることになるので、結果的にごみの減量につながる。ごみの分別を家庭で行うことの大切さを知り、分別には家族みんなの協力が必要だと考えることができた。児童が考えたごみ処理の問題を解決する方法を見ると、「物を大切に使う」「買い物でエコバッグを使う」のようにごみを減らすための直接的な取組に目を向けた記述が多かった。しかし、「ごみが減るときれいな町になるからリサイクルに協力する」や「ごみを処理する費用が減り、違うことに使えるからシャンプーは詰め替えができるものを使う」といったごみを減らすことによさと関連付けて、ごみ処理の問題を解決する方法を考えた児童は少なかった。

これは、自分たちの地域について調べたことと群馬県が行う取組（群馬県循環型社会づくり推進計画）を関連付けて、ごみ減量がなぜ住みよい社会をつくることになるかを考える活動がまだ不十分で、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることに気付かせられなかつたためではないかと考える。第2回目の授業実践では、資料集「ぐんまくん」の活用の仕方や社会的事象を比較・関連付けて、広い視野から考察させるには更なる工夫が必要であると考えた。

☆群馬県のごみの量

1年間に出す一人当たりのごみの量（平成25年度）

順位	都道府県名	ごみの量
1位	福島県	395kg
2位	青森県	390kg
3位	山口県	383kg
4位	群馬県	383kg

平成25年度に群馬県の家庭や会社から出されたごみの量は、一人1年あたりでは383kgとなっています。これは、都道府県別では福島県、青森県、山口県に次いで四番目に多くなっています。群馬県のごみの多さについて考えてみましょう。

☆群馬県の取組① 「群馬県循環型社会づくり推進計画」

群馬県では、平成23年度から平成27年度までの5年間、「群馬県循環型社会づくり推進計画」をつくり、ごみをへらし、しげんを利用することを積極的に進めようとしています。具体的に次のような取組をしています。

- ごみになるものをへらす「リデュース」、何度も使えるものをくり返し使う「リユース」、つくり直したり原料にもどしたりしてふたたび使えるようにする「リサイクル」の3R(スリーアール)を進めます。
- ごみをすてたりせず、きちんと清掃センターなどでしよりをすることを進めます。
- リサイクルに関係する会社のしごとがうまく進むように手助けをします。

群馬県は、なぜ「群馬県循環型社会づくり推進計画」をつくったのか考えてみましょう。



図1 資料集「ぐんまくん」からの抜粋

(3) 考え・まとめる過程において、地域の社会的事象の特色を広く捉えることができたか

考え・まとめる過程において、地域の社会的事象である清掃センターを見学、調査して分かったことと、資料集「ぐんまくん」を活用してごみ処理の問題やその解決について群馬県全体の様子や取組との関連を考察したことを基に、どのようにごみを処理し、ごみ処理に携わる人々はどんな工夫や努力をしているか特色としてまとめて意見交換する活動を行った。抽出児童の記述は、次のとおりである（表1）。

表1 社会的事象の特色について考える場面における抽出児童の記述

視点	抽出児童A	抽出児童B
どのように処理・再利用されるか	<ul style="list-style-type: none"> ○燃やせるごみはごみ収集車で清掃センターへ運び清掃センターで燃やされる。出た灰はトラックでクリーンセンターへ運び埋められる。 ○資源ごみはごみ収集車で清掃センターへ運び分別される。その後業者へ運びリサイクルされる。 ○粗大ごみはごみの持ち主が清掃センターへ自分で持っていく、そこで細かくされて燃やされる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○燃やせるごみは清掃センターで燃やされて処理している。 ○資源ごみは清掃センターで分けられ、再生業者で新しい物に変える。(リサイクル) ○粗大ごみは清掃センターに自分で運び細かくして処理している。
工夫や努力	○いやなにおいや空気を出さないよう気を付ける。	○いやなにおいや煙を出さないようにごみを燃やす。

抽出児童AとBは、燃やせるごみや資源ごみ、粗大ごみなどのごみのゆくえをつかみ、ごみの処理について理解することができた。これは、清掃センターの見学や調べたことを図に表しながらまとめたためと考える。また、清掃センターの人々の工夫や努力に目を向け、ごみ処理に携わる仕事の特色として記述できたが、群馬県が進めている取組や地域の人々が行う取組を比較・関連付けて考えた記述はなかった。これは、学習したことをまとめるだけでは、社会的事象相互の関連を明らかにすることができず、広い視野から特色を見いだすことができなかつたためと考える。第2回目の授業実践では、地域の社会的事象を見学して分かったことをまとめるだけでなく、資料集「ぐんまくん」を活用して社会的事象を比較・関連付けて考えたことを取り入れてまとめ、意見交換で自分にはない考えを加えながら社会的事象の特色を広い視野から捉えられるようにしたい。

2 第2回目授業実践の結果と考察

(1) 追究する過程において、見学・質問のポイントを用いることで、地域の社会的事象についての学習のねらいを明確に持つことができたか

① 結果

自分たちの住んでいる地域に古くから残る建物や行事の写真を見て知っていることや疑問、自分たちが参加した経験を発表することで、古い建物や行事に関心を持った児童は、「地域に残る古い建物や行事に込められた願いや受け継ぐための工夫や努力は何か」という学習課題を設定した。その後、課題を解決するための方法を話し合い、「古い建物などを見学する」「古い行事について詳しい人から話を聞く」ことで課題解決を図ろうとした。

次に、追究する過程において、自分たちの住んでいる地域にある文化財（「増信寺」「応永の塔」「一丁目道標」）の見学と祭りや年中行事（「藤岡祭り」「どんどやき」）の聞き取り調査を行うことにした。その活動の前に見学・質問のポイントをいながら見学などで気を付けることについて確かめた。見学・質問のポイントは、見学や聞き取り調査でどんなことを見るのか、どんなことを聞くのかを児童と確認しながら作成したものである（図2）。児

見学・質問のポイント

文化ざいや祭り、年中行事の見学や聞き取りをする前に「見学・しつものポイント」を使って、どんなことを見たり、聞いたりすればよいか計画を立てましょう。

見ること
<ul style="list-style-type: none"> ・その文化ざいは、どんな形や感じがするか。 ・他とくらべて特に目立つところはどんなところか。 ・じっくりかんさつして、自分だけが見つけたひみつは何か。 ・その祭りや年中行事は、どんなようすか。
聞くこと
<ul style="list-style-type: none"> ・その文化ざいは、いつごろからあるか。 ・その文化ざいは、何に使われているか。 ・その文化ざいは、だれが何のためにほぞんしているのか。 ・守り、受けついでいくためにどんな取り組みや努力をしているか。 ・こめられた人々のねがいはどんなものか。 ・その祭りや年中行事は、いつごろから行われているか。 ・その祭りや年中行事は、どうして行われるようになったのか。 ・その祭りや年中行事は、どんな人がさんかしているか。 ・その祭りや年中行事が長くつづくわけは何か。 ・その祭りや年中行事をどんな思いで行っているか。 ・その祭りや年中行事をどんな気持ちで受けついでいるか。

図2 見学・質問のポイント

童は、表2の下線にあるとおり学習課題の答えを見付けるために見学や聞き取り調査をするという意識を強く持つことができた。

表2 見学で気を付けることを確認しながら見学する活動と学習課題をつなげている場面の授業の様子

T : 増信寺などにこれから見学に行くけど、何のために行くのかな？	S 5 : どんな願いが込められているか。
S 1 : 調べるため。	S 4 : どのように受け継がれてきたか。
S 2 : 詳しい人の話を聞くため。	T : 見学で気を付けることはどんなこと？
T : どのようなことを調べるために行くの？	S 6 : <u>見学・質問のポイントを見ながら見学する。</u>
S 3 : <u>学習課題の答えを見付けるため。</u>	S 7 : <u>ポイントに書いてあることを見たり、聞いたりする。</u>
T : 実際に古い建物を見学すれば、学習課題の答えを見付けられると考えたんだね。学習課題は何？	T : どうしてポイントを見ながら見学するの？
S 4 : 地域に残る古い物には、どんな願いが込められ、どのように受け継がれてきたのでしょうか。	S 8 : <u>どんなことを見たり、聞いたりすればいいか分かる。</u>
T : 今日の見学では、何が分かればいい？	S 9 : <u>関係ない質問をしなくなる。</u>
	T : 関係ない質問は何？
	S 10 : <u>学習課題の答えを見付けるためでない質問。</u>
	T : <u>学習課題の答えを見付けるために見学に行こう。</u>

その後、見学・質問のポイントを用いて文化財の見学や祭りや年中行事の聞き取り調査を行い、分かったことをメモする活動を行った。抽出児童Aは、見学・質問のポイントにある「込められた人々の願いはどんなものか」を用いて増信寺の住職に質問し、「ご先祖様に安らかに眠ってもらいたい、人々に安らかに暮らしてほしいという願いが込められている」とメモした。抽出児童Bも、見学・質問のポイントの中から「祭りが長く続くわけは何か」を用いて祭囃子保存会の方に質問し、「保存会を作ってみんなに教えているから藤岡祭りは続いている」とメモした。

② 考察

児童は、見学や聞き取り調査において、なぜこの活動をするのかという意識を持ち、学習課題を想起しながら、学習課題の答えに結び付く見学や質問をすることができた。これは、見学・質問のポイントを用いて見学や聞き取り調査を行うことで、見学する活動と学習課題がつながり、学習のねらいを明確に持つことができたためと考える。

学習後に行ったアンケートで「今後どんな学習をしていくのか分かったか」の質問に対して、「とてもよく分かった」「だいたい分かった」と答えた割合は97%と高い。これは、見学・質問のポイントを用いて見学の活動と学習課題をつなぎ合わせることが、学習課題をはっきりとつかむことに有効であったと児童が感じたためではないかと考える。また、「どんなことが気になるようになったか」の質問に、抽出児童Aは、「授業で調べた文化財以外に藤岡市には、どんな文化財があるのか気になるようになった」と回答し、抽出児童Bは、「どんどやきが気になり、参加しようと思った」と答えていることから、地域の文化財の学習に対する関心が広がっていることが分かる。これは、見学・質問のポイントを用いて見学の活動と学習課題とをつなぎ合わせることが、児童の目的意識を高めることだけでなく、学習に対する関心を広げることにも効果があったためと考える。

以上のことから、見学・質問のポイントを用いながら見学する活動と学習課題をつないで自分たちの住んでいる地域の社会的事象を見学、調査することは、地域の社会的事象についての学習のねらいを明確に持つことに有効であると考えられる。

(2) 追究する過程において、資料集「ぐんまくん」を活用し、自分たちの住んでいる地域の社会的事象と群馬県全体の様子や取組を比較・関連付けて考えることで、地域の社会的事象を様々な側面や異なった立場から見ることができたか

① 結果

追究する過程において、資料集「ぐんまくん」（「群馬県の文化財の概要や課題、文化財保護に対する群馬県の取組の資料」「文化財を保護するために地域の人々が行っている取組の資料」）を活用して、自分たちの住んでいる地域の社会的事象と比較・関連付けながら、群馬県全体の文化財の特徴や保護する上での課題を調べたり、文化財を保存・継承するために群馬県として進めている取組の良いところを考えたりする活動を行った。その後、資料を読み取って分かったことをグループで意見交換し、自分が気付かなかったことを加筆・修正した。抽出児童Aは、「文化財保護に対する群馬県の取組の資料」を読み取り、文化財保護のために群馬県が行う取組のよさに気づき、「ぐんま地域文化マップを作ると、群馬県に昔から伝わる芸能や行事が分かる」とワークシートに記述した。資料の読み取りが進まなかった抽出児童Bに対して「資料にある表からどんなことが分かり

ますか。」と話しかけると、国登録文化財の建物の数を示す表に着目し、群馬県全体の文化財の特徴として「国登録の文化財が全国で8位。300棟もある。」と記述することができた。

☆群馬県の文化財のかだい

国や県、市が保存することにした文化財ですが、なぜ大切なのか地域に住む人々に意外と知られていません。文化財を身近に感じることができず「自分たちの物」といういしきを持ちにくいことがかだいとなっています。郷土芸能などの文化財を保存しようとする人の数も少なくなっ



てしまい、お年よりが中心のところも多くなっています。自分たちのみのまわりにある文化財がなぜ大切なのか考えてみましょう。(写真は、藤岡市で行われている藤岡まつりです。)

☆群馬県の取組① 「群馬県文化財保護条例」

群馬県では、昭和51年に県にとって重要な物を保存したり、十分に生かして用いたりするための決まりを作りました。それが群馬県文化財保護条例です。



具体的には次のような決まりをさだめ、文化財を守ろうとしています。

- 文化財となっている植物を取ってはいけません。
- 文化財となっている地面をほってはいけません。
- 文化財の近くでたき火や花火をしてはいけません。

文化財は、私たち人間の長い歴史がきざまれた物で、今残っているただ一つの物かもしれません。ですから、一度なくしてしまうと、二度とわたしたちは見ることができなくなってしまいます。写真や絵だけでは感じてもらえず、文化や正しい歴史を伝えていくことができません。そこで、群馬県では、この条例を作って、文化財を保存していくこととしているのです。(写真は、藤岡市にある高山社跡です。)

図3 資料集「ぐんまくん」からの抜粋

次に、「文化財を保護するために地域の人々が行っている取組の資料」から地域の文化を受け継ぐための取組を調べ、良いところや大変なところを考える活動を行った。抽出児童Aは、郷土カルタを作りみんなに伝える取組のよさは「地域に伝わる文化などが分かる」ことであると記述した。また、抽出児童Bは、地域の祭りなどに参加する取組は「祭りなどを受け継ぐ人や場所も減っており、参加することが大変」と考え記した。抽出児童の記述は、次のとおりである(表3)。

表3 文化財保護の問題やその解決について比較・関連付けて考える場面における抽出児童の記述

視点	抽出児童A	抽出児童B
		○は自分で読み取り、記述したこと 下線は地域の社会的事象と群馬県全体の様子や取組を比較・関連付けて考えている様子が分かる記述
群馬県の文化財などの特徴	○国指定文化財が、138件、県指定文化財が419件、合わせて557件ある。その中に世界遺産も含まれる。 ☆国登録文化財の多さが全国で8位。	○国登録文化財が全国で8位。300棟もある。 ☆文化財には四つの種類がある。 ☆旧富岡製糸場や高山社跡などの世界遺産も文化財だ。
群馬県の文化財保護の課題	○地域の人に文化財の何が大切なのか分かってもらえない。 ☆保存する人が少なくなっている。	○文化財を身近に感じることができず、自分たちの物という意識を持ちにくい。 ☆郷土芸能を保存しようとする人数も少なくなっている。
群馬県がすすめている文化財保護の取組	○ぐんま地域文化マップを作ると、群馬県に昔から伝わる芸能や行事が、どこでどのように行われているかが分かる。地域に伝わる文化や風習をこれからも続けられる。 ☆群馬県文化財保護条例を作り、文化財を守ろうとしている。決まりを作らないと、文化財が汚くなったり、なくなったりしてしまう。	○群馬古墳総合調査でどこにどのような古墳がどのくらいあるのか調べると県が誇る古墳のことをみんなに知ってもらえる。しないと、古墳のことを知ってもらえない。 ☆ぐんま地域文化マップを作り、みんなに知ってもらうために紹介している。文化をこれからも伝えられる。
地域の人々が行っている文化財保護の取組	○(郷土カルタを作り、みんなに伝えると)地域に古くから伝わる文化や祭り、郷土芸能などが分かる。 ☆郷土カルタの読み札を作るのが大変である。	○(地域の祭りや年中行事に参加すると)その祭りや年中行事を守ろうという心を持てる。 ○祭りや年中行事を受け継ぐ人や行う場所が昔と比べて少なくなっている。やめてしまったところもあるので、参加するのが大変である。 ☆町のことを知ることができる。
自分のできること	○文化財や年中行事の紹介カードを作る。みんなに地域の文化財や年中行事のことを知ってもらえる。	○古くから残されている物を大切にす。文化財を自分たちの宝と思う人がだんだん増える。

② 考察

評価の視点を「群馬県の文化財の特徴」「群馬県の文化財保護の課題」「群馬県が進めている文化財保護の取組」「地域の文化を受け継ぐために人々が行っている取組」「地域の文化を受け継ぐために自分にできること」とし、児童が資料集「ぐんまくん」を活用し、地域の文化財について調べたことと群馬県全体の様子や取組を比較・関連付けて地域の文化財保護の問題やその解決について考えた様子をワークシートの記述内容から評価した。記述内容を客観的に見るため、表4のように評価基準を設定した。

A評価の児童は80%となった。抽出児童のAとBは、共にA評価であった。これは、資料集「ぐんまくん」を活用し、地域の社会的事象と群馬県全体の様子や取組を比較・関連付けて地域の文化財の保存・継承の問題やその解決について考えることができたためであると考えられる。

B評価の児童が20%となり、比較・関連付けながら地域の文化財を様々な角度から考える部分に不十分さがあった。群馬県という行政の立場で文化財保護政策を進める人、地域の文化財の保護に直接携わる人、地域に住む人など複数の立場から文化財の考察ができなかった。異なる立場を例示するなど多角的な考察を児童ができるような支援が必要である。

抽出児童Aは、以前に行った文化財の見学で「昔の人々の努力によって文化財は守り、受け継がれている」ことを知った。その後に行った「ぐんまくん」の資料で読み取ったことの見聞交換で「群馬県は文化財保護条例を作り、文化財を守ろうとしている。決まりを作らないと、文化財がなくなってしまう」と考え、地域の先人が文化財を守ってきたことと群馬県が現在行っている文化財保護の取組を比較・関連付けて考察し、ワークシートに記述した。過去や現在という時間的な視点から地域の文化財を見て、保護する多様な取組に気付くことができた。それだけでなく、文化財保護に努力する人が複数いることに気付き、「文化財を壊したら受け継いできた人に申し訳ないから、わたしも地域の文化財を守る」と発言した。また、「地域に住む人にとって文化財は、何が大切なのか分かってもらえない」という文化財保護の課題を記した。地域の文化財は、保存に携わる人には大切に受け継ぎたい物であるが、地域に住む人には何が大切か分からない物となっている。立場が変わると文化財への見方も変わることを知り、地域の文化財を異なる立場から考察できたと考える。

抽出児童Bは、祭りの聞き取り調査で保存会を作り祭囃子を教える藤岡祭りを受け継ごうとしている人の存在を知った。「ぐんまくん」の資料の読み取りから「地域に住む人は文化財を身近に感じることができない」という文化財保護の課題に気付き、その解決のために群馬県が行う四つの取組を（「群馬県文化財保護条例」「文化財保護審議会」「群馬古墳総合調査」「伝統文化継承事業」）ワークシートに記述した。祭りについて調べたことと群馬県の取組を比較・関連付けて、自分たちが住んでいる市町村や群馬県という空間的な視点から文化財保護の取組を見ることができた。また、地域の人が祭りに参加すると、「祭りを守ろう」という心を持つ」というよさがあると気付き、「文化財は昔の人が建てて大切にし、いろいろな人が受け継いできたのだから、わたしたちも文化財を守るべきだ」と発言した。これは、資料集「ぐんまくん」を活用しながら、自分たちの住んでいる地域の文化財と地域の文化を受け継ぐために人々が行っている取組を比較・関連付けて、地域の文化財について考えたことが、このような意識につながったためと考える。

表4 文化財保護の問題やその解決について比較・関連付けて考えることができたかについての評価基準

評価	評価基準(五つの視点のうちいくつかの視点から記述しているか)
A	四つ以上の視点から記述している。
B	二～三つの視点から記述している。
C	一つの視点から記述している。または、記述なし。

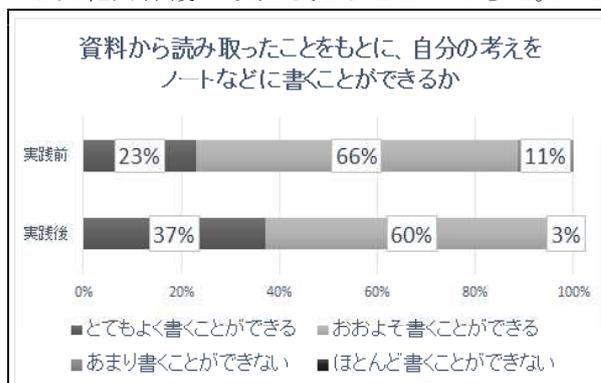


図4 実践前と実践後のアンケート結果の比較

授業実践前と実践後にアンケート調査を実施して、比較を行った(図4)。「資料から読み取っ

たことをもとに、自分の考えをノートなどに書くことができるか」の質問に対して「とてもよく書くことができる」「おおよそ書くことができる」と答えた割合は実践前は89%であったが、実践後は97%となった。これは、資料集「ぐんまくん」で群馬県全体の様子はどうなっているのかをつかみ、自分たちが調べたことと比較・関連付けて考えることで、社会的事象相互の関連が明らかになり、社会的事象の特徴に気付くことができると児童が感じたためと考える。

以上のことから、追究する過程において、資料集「ぐんまくん」を活用し、自分たちの住んでいる地域の社会的事象と群馬県全体の様子や取組を比較・関連付けて考えることは、地域の社会的事象を様々な側面や異なった立場から見ることに有効であると考えられる。

(3) 考え・まとめる過程において、自分が調べて分かったことと、資料集「ぐんまくん」で広い視野から考えたことを基にまとめて意見交換することで、地域の社会的事象の特色を広く捉えることができたか

① 結果

考え・まとめる過程において、地域の文化財などを調べて分かったことと、資料集「ぐんまくん」を活用して群馬県全体の様子や取組を比較・関連付けて考えたことを基に、地域の文化財にどのような特色が見られるかまとめ、意見交換する活動を行った。抽出児童Aは、特色として文化財に込められた願いに目を向け、文化財の見学で分かったことを整理したワークシートを見ながら「地域に残る古い物には昔の人々のご先祖様を思う気持ち、旅人への優しい気持ち、家族を思う気持ち、人々を守りたいと思う気持ちなどが願いとなって込められている」と記した。また、地域の文化財は、「今の人が守ったり、地域の人に協力してもらって、今でも受け継いでいる」と受け継いできた人がした努力や工夫を特色として記述した。そして、文化財などには「幸せや健康になるように」「病気にならないように」「藤岡を発展させたい」などの願いが込められていると友達の発言から気付き、込められた願いは「人に対する願い」と「自分たちの住んでいる地域に対する願い」の二つであるとまとめ直した。抽出児童Bは、文化財に込められた願いは個々に異なることに気付き、「応永の塔はみんなが長生きできるように、藤岡祭りは藤岡が発展するようになどの願いが込められている」と特色を記した。また、一丁目道標や応永の塔を藤岡市が文化財にし、フェンスで囲って守るなど行政の立場から保存したり、地域に住む人が祭囃子の保存会を作り子どもに教えることで祭りを受け継ごうとしたりといった保護の取組が複数あることに気付き、文化財は「いろいろな人と協力して受け継いでいる」と人々の努力や工夫の点から特色を記述した。意見交換で文化財などに込められた願いは何かという問いに、「健康になってほしいや商売がたくさんできるように」という発言があったのを聞き、「人が幸せになってほしい」という願いに気付き書き加えた。抽出児童の記述内容は次のとおりである（表5）。

表5 地域の文化財の特色を広く捉える場面における抽出児童の記述

	抽出児童A	抽出児童B
視点	○は自分で記述したこと 下線は文化財の特色を広く捉えている様子が分かる記述	☆はグループでの意見交換で気付き、加筆したこと
地域にある文化財の特徴	○429年前に鬼から守るために作られた。(増信寺) ○1404年に作られた。亡くなった人が極楽に行けるように願う供養塔。(応永の塔) ○今から163年前の1832年11月5日に作られ、43年前に文化財にされた。(一丁目道標) ○昭和32年に始まりお客さんが75000人来る。(藤岡祭り) ○各地域であったが、今は藤岡全体でやっている。(どんどやき)	○429年前の安土桃山時代に斉藤増進が建てた。(増信寺) ○1404(応永11)年に鎌倉街道に作られた。(応永の塔) ○1832年に作られ、43年前に文化財として保護すると決めた。一丁目の角にあったが、今の場所に移された。(一丁目道標) ○昭和32年から行われている。祭りの山車は諏訪神社が5基、浅間神社が8基で合計13基ある。(藤岡祭り) ○小林の畑で行う地域に伝わる年中行事。(どんどやき)
文化財に込められた願い	○ <u>地域に残る古い物には、昔の人々のご先祖様を思う気持ち、旅人への優しい気持ち、人々を守りたいと思う気持ち、家族を思う気持ちなどが願いとなって込められている。</u> ☆ <u>幸せや健康になるように、病気にならないようになどの人に対するの願いと、物が売れるように、作物がよく育つように、藤岡を発展させたいなどの自分たちの住んでいる地域に対するの願いが込められている。</u>	○ <u>道に迷わないように(一丁目道標)、みんなが長生きできるように(応永の塔)、藤岡が発展するように、店でたくさん物が売れるように(藤岡祭り)、お墓を守ろう(増信寺)、自然や人々への願い(どんどやき)が込められている。</u> ☆ <u>健康になってほしい、商売がたくさんできるように、人が幸せになってほしい、作物がよく育つように、藤岡を発展させたいなどの願いが込められている。</u>
受け継	○今の人が守ったり、地域の人に協力してもらったりし	○文化財に登録する。(一丁目道標) フェンスで囲って守

ぐ工夫や努力	て、今も受け継いでいる。 ○昔の人から今の人に古い物に込めた願いが受け継がれ、今の人が努力をして守ってきた。だからずっと残っている。	ったり、みんなに教えたりする。(応永の塔) 檀家さんを増やす。(増信寺) 昔から行っている。(どんどやき) 保存会を作ってみんなに教えている。(藤岡祭り) いろいろな人と協力して受け継いでいる。
--------	---	---

② 考察

評価の視点を「地域の文化財の特徴」「文化財に込められた願い」「文化財を受け継ぐための工夫や努力」とし、児童が地域の文化財に見られる特色について考えた様子をワークシートの記述内容から評価した。記述内容を客観的に見るため、表6のように評価基準を設定した。

表6 社会的事象の特色を広く捉えることができたかについての評価基準

評価	評価基準(三つの視点のうちいくつの視点から記述しているか)
A	三つの視点から記述している。
B	一～二つの視点から記述している。
C	社会的事象の説明のみ記述している。あるいは記述なし。

A評価の児童は74%となった。抽出児童のAとBは、共にA評価であった。これは、地域の社会的事象を調べて分かったことと、資料集「ぐんまくん」で広い視野から考えたことを基に、地域の人々の社会生活の特徴や工夫、努力についてまとめることで、地域の文化財の特色を見いだすことができたためと考える。また、意見交換で自分ない考えを赤ペンで追加してメモさせたことで、気付かなかったことが明確になり、社会的事象の特色を広く捉えることにつながったと考える。

B評価の児童は26%となり、「地域の文化財には人や地域に対する願いが込められている」「過去や現在の人、地域に住む人や行政の立場の人などが受け継ぐための取組をすることで今の時代まで地域の文化財などが残っている」ことについて、十分考察できていなかった。B評価の児童についても、社会的事象を比較・関連付けて考える活動を積み重ねることで、どのような特色が見られるかを見いだし、社会的事象の特色を広く捉えることができると考える。

授業実践前と実践後にアンケート調査を実施して、比較を行った(図5)。児童は、資料を活用しながら考えることが、学習したことをまとめたり、課題の答えを見いだすのに効果があると感じていることが分かる。抽出児童Aは、資料集「ぐんまくん」を活用して学習した感想を「文化財についてよく考えられ、文化財を守ろうと思うようになった」と答えた。抽出児童Bは、「群馬県の文化財の特徴をたくさん知ることができた」と回答した。これは、文化財の特色を見いだす場面で、地域の文化財を自分が調べて分かったことだけでなく、資料集「ぐんまくん」を活用しながら考えたことを取り入れてまとめたことが、特色を広く捉えることにつながったと児童が感じたためと考える。

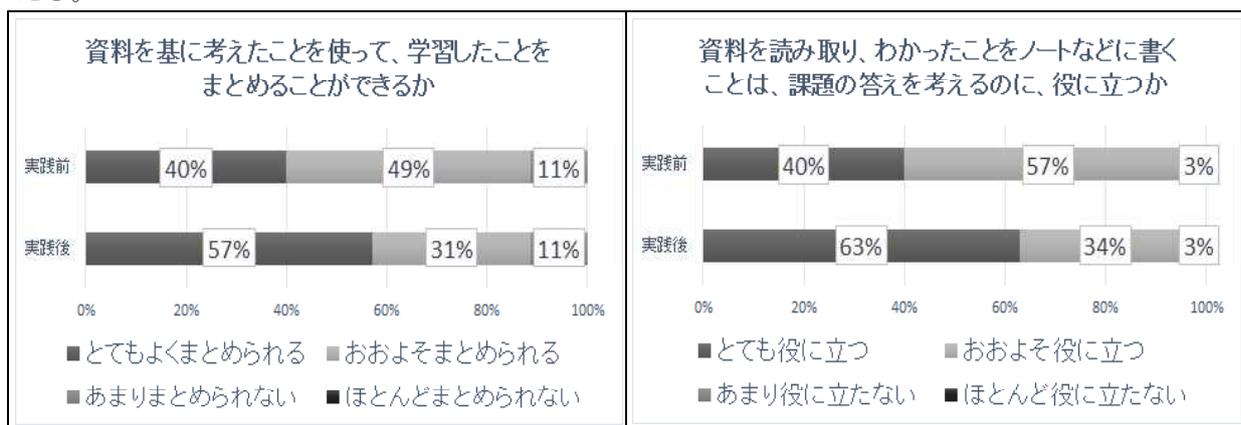


図5 実践前と実践後のアンケート結果の比較

協力校において他のクラスで同単元を授業実践した職員と資料集「ぐんまくん」を活用することについて検討した。資料集「ぐんまくん」を用いることで、自分たちが調べたことを群馬県という広い視野から考えられたため、自分たちの住んでいる地域のことを調べる学習で終わらず、地域の社会的事象についてより広く考えられたという意見が出るなど、資料集「ぐんまくん」の活用は効果があると考えられる。

以上のことから、考え・まとめる過程において、自分たちの住んでいる地域の社会的事象を見学、調査して分かったことと、資料集「ぐんまくん」で広い視野から考えたことを基に、地域の人々の社会生活の特徴や工夫、努力についてまとめ、意見交換することは、地域の社会的事象の特色を広く捉えることに有効であると考えられる。

Ⅶ 研究のまとめ

1 成果

小学校社会科の地域学習において広い視野から考える資料集「ぐんまくん」を作成し、活用しながら自分たちの住んでいる地域の社会的事象を考えることは、社会的事象の特色や相互の関連について考える力を高めることに有効であった。

- (1) 追究する過程において、見学・質問のポイントを用いながら見学する活動と学習課題をつなぎ、常に学習課題を想起しながら自分たちの住んでいる地域の社会的事象を見学、調査することにより、学習課題をはっきりとつかみ、地域の社会的事象についての学習のねらいを明確に持つことができた。
- (2) 追究する過程において、地域の社会的事象について自分たちが調べたことと資料集「ぐんまくん」から読み取った群馬県全体の様子や取組を比較・関連付けて考えることにより、社会的事象が持つ多様な面に気付いたり、社会的事象を異なった立場から考えたりすることができた。
- (3) 考え・まとめる過程において、地域の社会的事象について自分たちが調べて分かったことと、資料集「ぐんまくん」で広い視野から考えたことを基に、地域の人々の社会生活の特徴や工夫、努力についてまとめ、意見交換することにより、どのような特色が見られるかを見いだし、社会的事象の特色を広く捉えることができた。

2 課題

- (1) 社会的事象の特色や相互の関連について考える力を高めるためには、小学校の地域学習において、資料集「ぐんまくん」を活用し、自分たちが調べた社会的事象と群馬県全体の様子を比較・関連付けて考える活動を行うことが有効である。これらをどのように指導計画に位置付け、実践していくかを考える必要がある。
- (2) 社会的事象を多面的・多角的に考える力を育てるためには、他の単元においても社会的事象を様々な面から見るができる資料や社会的事象を異なった立場から考えることができる資料を集め、資料集「ぐんまくん」を充実させていく必要がある。

Ⅷ より良い実践に向けて

本研究では、学習に関連する群馬県の統計や行政の取組などの資料を活用し、自分たちが調べた社会的事象と群馬県全体の様子を比較・関連付けて考える活動を行うことの有効性について検証した。小学校第3・4学年の地域学習において、群馬県全体の様子を比較・関連付けて考える活動を取り入れることにより、地域の社会的事象を広い視野から考え、特色や相互の関連について考える力を伸ばしていけるものと考えられる。

<参考文献>

- ・北 俊夫 著 『社会科学力をつくる“知識の構造図”』 明治図書(2011)
- ・小原友行 編著 『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン』 明治図書(2009)

<担当指導主事>

近藤 照久 飯塚 俊英